

大粒でイネ縞葉枯病抵抗性を持つ 水稻品種「ふくまるSL」等の育成

茨城県農業総合センター
農業研究所 環境・土壤研究室
岡本 和之

一番星

育成の背景

早場米栽培地帯である県南・鹿行地域では準奨励品種「あきたこまち」が作付けされているが、一部の地域では成熟期前に収穫が行われ青米が多く含まれていることや、白未熟粒（白濁）などの発生による品質の低下が問題となっている。そのため、「あきたこまち」より早期に収穫が可能であり品質の優れた極早生品種が強く要望されていた。

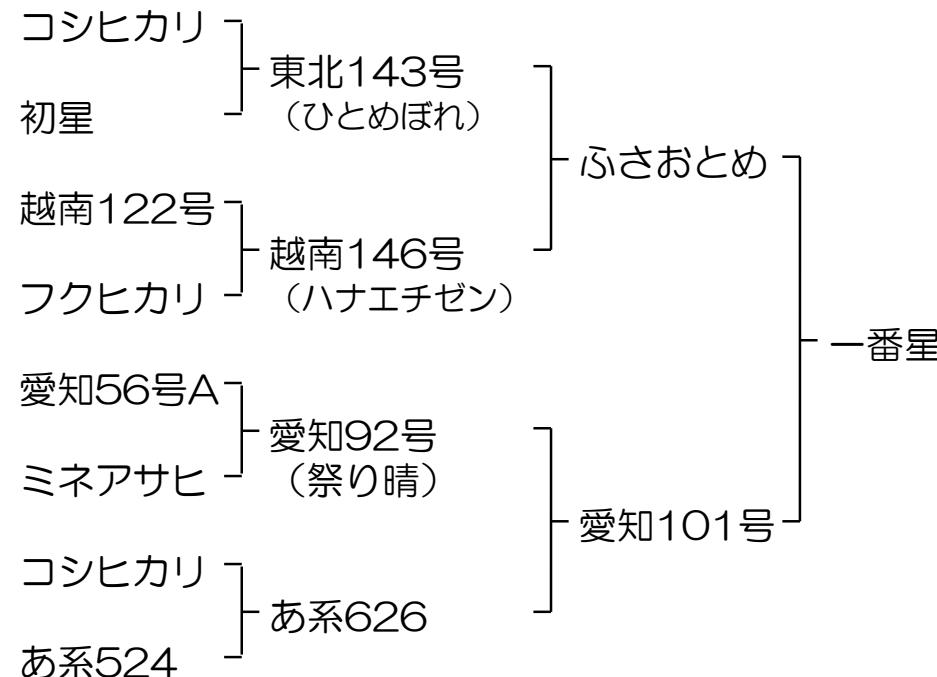


図 「一番星」の系譜



一番星

主な特性

「**一番星**」は、準奨励品種「あきたこまち」と比較し、

- ・出穂期は2日遅～1日早く、成熟期は1～3日早い
- ・収量は同等で、玄米千粒重は1.5g程度重い
- ・玄米品質は、粒揃いが良く、白未熟粒の発生が少ない
- ・食味総合評価はほぼ同等
- ・耐冷性は「強」、高温耐性は「強」で、ともに「あきたこまち」より優れる

ランク 極弱、弱、やや弱、中、やや強、強、極強

- ・イネ縞葉枯病抵抗性を持つ

○平成25年度から認定品種として採用され、令和4年度は158haで栽培



一番星

あきたこまち

ふくまる

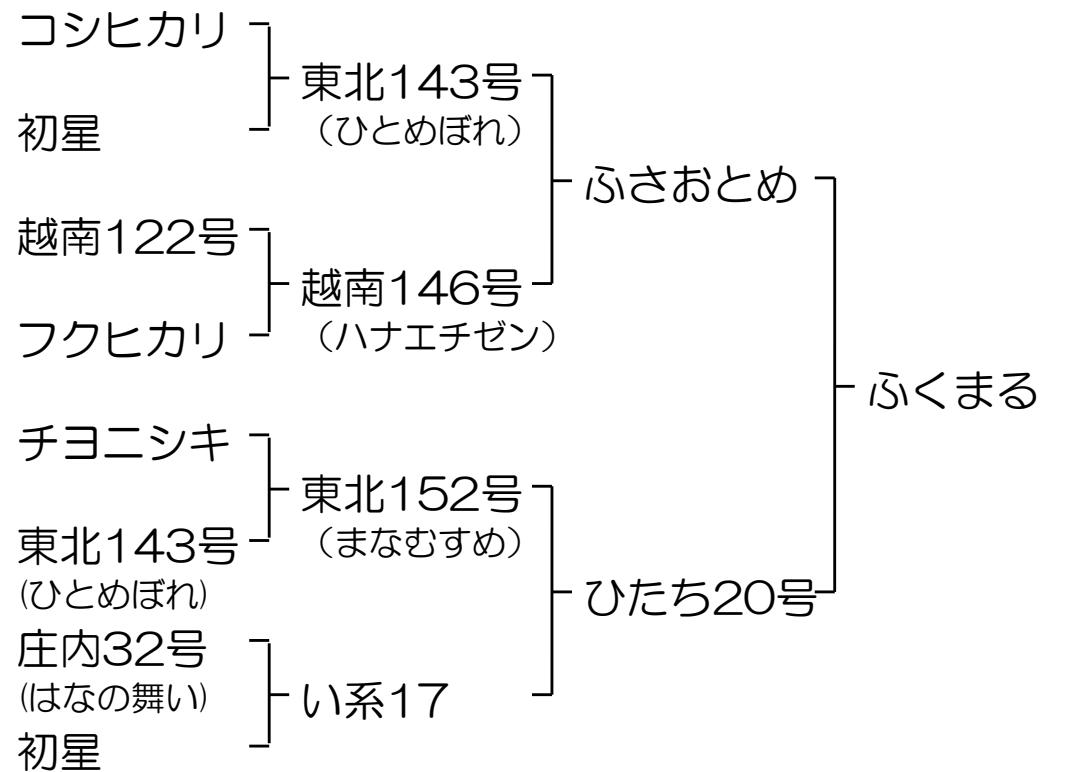


図 「ふくまる」の系譜

育成の背景

農業従事者の減少や農業生産の効率化に対応するため、経営体の大規模化を進めている。

水稻経営体の所得向上には、規模拡大において新たな投資が少なくて済む多品種構成による作期・作業分散が有効である。

一方、茨城県の水稻作付品種は「コシヒカリ」偏重で、作期分散に活用できる早生品種の開発が要望されていた。

ふくまる

主な特性

「ふくまる」は、早生熟期の奨励品種「ひとめぼれ」と比べ、

- ・出穂期・成熟期は1～2日早い
- ・収量はほぼ同等
- ・大粒で玄米千粒重は2 g程度重い
- ・玄米の外観品質は、粒揃いが良く、光沢があり、優れる
- ・食味は同等

○中生熟期の主要品種「コシヒカリ」と作期分散が可能

○高温下でも「コシヒカリ」よりも白未熟粒の発生は少なく、
品質は安定

○平成24年度から準奨励品種として採用された



ふくまる

コシヒカリ

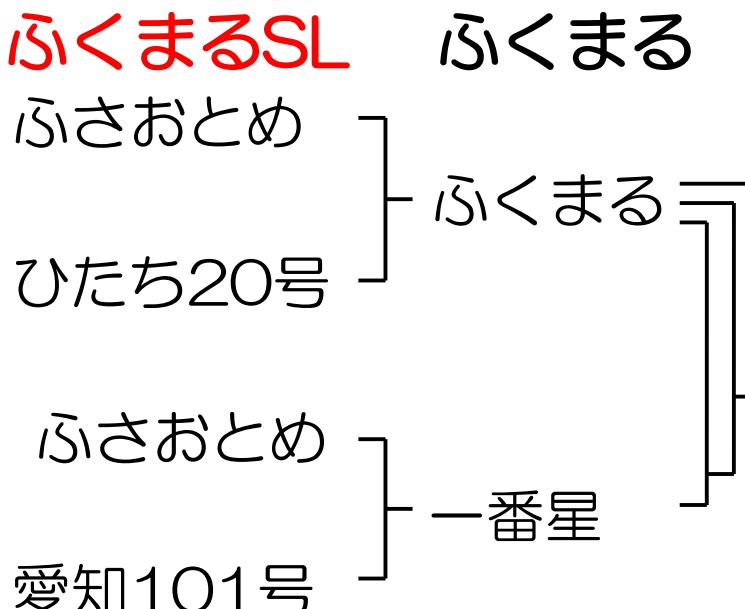


図 「ふくまるSL」の系譜

ふくまるSL

育成の背景

茨城県内では平成25年頃からイネ縞葉枯病の被害が顕在化してきたため、課題の解決に向け、早生多収品種「ふくまる」の同質遺伝子系統「ふくまるSL」を育成した。

「**ふくまるSL**」はイネ縞葉枯病抵抗性以外の特性が「ふくまる」と同じで、高温下でも品質は安定している。

- ・令和2年 品種登録出願公表
- ・令和3年 「ふくまる」から「ふくまるSL」へ全面切替
- ・令和4年 1,003haで栽培

最後に

試験研究に関わった諸先輩方、
すべての皆様に
深く感謝申し上げます